

研究課題番号	5-2205
研究課題名	作用・構造や曝露プロファイルの類似性に基づく複数化学物質の生態リスク評価手法の開発
研究実施期間	令和4年度～令和6年度
研究機関名	国立研究開発法人国立環境研究所
研究代表者名	山本 裕史

1. 委員の指摘及び提言概要

フタル酸エステル類について3生物の生態毒性試験のデータを取得し、グルーピングおよび曝露評価手法開発など、生態リスク評価方法について十分な知見を得ており、計画通りに進展している。今後は選定中の農薬、界面活性剤などで同等のケーススタディを蓄積することが期待される。一方、以下のような指摘があり、それぞれについて今後の対応が必要である。

- ・物質選定の戦略が分かりにくく、化学物質の物性や毒性の機序を考量したグルーピングが必要ではないか。
- ・funnel 仮説の検証の見通しを示すべきである。
- ・金属類の複合影響について検討されているが、金属による毒性の機序やモル数、金属の錯形成の傾向の差などが考慮された複合影響評価方法をどのように定めるか、道筋を示してほしい。
- ・特に評価委員（複数）の疑問・批判的見解に対する回答を、終了研究成果報告書には反映するよう求める。

2. 採点結果

評価ランク：B